

北戸田駅周辺まちなかウォーカブル

将来ビジョン

令和7年4月 戸田市



戸田市ウォーカブル
推進事業 Toda Walkable
Promotion Project

目次

① 新しい北戸田のイメージ・・・・・・・・	2
② 今後の北戸田駅周辺の可能性・・・・・	5
③ ビジョンの趣旨・背景・・・・・・・・	6
④ 対象エリア・・・・・・・・	8
⑤ 現況・課題・・・・・・・・	9
⑥ 将来ビジョン・・・・・・・・	18
⑦ エリア別の将来像・・・・・・・・	19
⑧ 実施体制・・・・・・・・	25

①新しい北戸田のイメージ

駅前・交流広場



高架下周辺



①新しい北戸田のイメージ

公園



笹目川プロムナード



①新しい北戸田のイメージ

移動・滞在空間



ウォーカブルを推進するロゴマーク



コンセプト：シンボルマークは、戸田市が掲げるハーモナイズド・マークの「人の形」をモチーフとし、その人が「歩きたくなる」様子を表現しています。また、事業を老若男女幅広い世代に浸透させるために、シンボルマークおよびロゴタイプはポップで柔らかい印象に仕上げました。

エリアイメージ・ロゴデザイン：鶴巻 卓巳

②今後の北戸田駅周辺の可能性

- これまでの市内3駅は通勤・通学を中心とする「移動拠点」として、主に利用されてきました。
- これからの駅周辺は、多様な世代が都市型の洗練されたライフスタイルを満喫できる暮らしを支える「中心拠点」として、また鉄道沿線の利便性に魅力を感じるスポットとして、多種・多様な人々がそれぞれ目的を持って訪れる場所になる可能性を秘めています。
- 特に北戸田駅周辺は新曽第一土地区画整理事業等により、基盤整備が推進されるため飛躍することが見込まれています。

子どもの遊び場がある



自由に表現できる地域の活動・ 交流を生む



(IKEBUKURO LIVING LOOP 豊島区)

生活利便性が高い (カフェ、チャレンジショップ、 コワーキングスペース等) ※



滞在を促す セミ・プライベートな空間 ※※



家族・友人と近所で 食事を楽しむ機会づくり ※



※…Adobe Firefly
※※Bing image creatorにより作成

③ビジョンの趣旨・背景

3-1 「まちなかウォカブル」とは

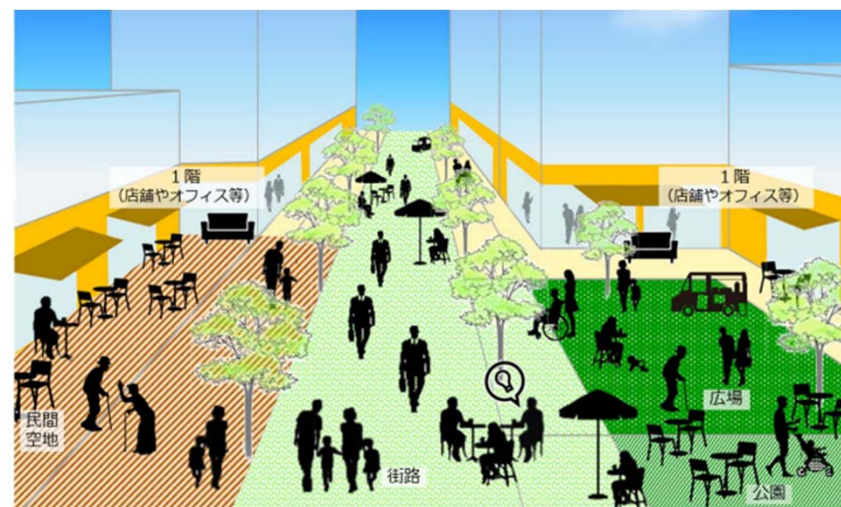
- 令和2年にウォカブル推進法（改正都市再生特別措置法）が成立し、国土交通省都市局により「まちなかウォカブル」という概念が提唱され、街路空間を「車中心」から「人中心」の空間へ転換し、多様な人々の交流の場を形成することで都市の魅力を向上させる取組みが推進されています。
- 「ウォカブル(walkable)」という言葉は、歩く(walk)とできる(able)を組み合わせた「歩きたくなる」を意味する言葉であり、滞在環境の向上に資する「居心地が良く歩きたくなる」まちづくりのことを「まちなかウォカブル」と表しています。

ウォカブルポータルサイト(国土交通省)



出所：ウォカブルポータルサイト

「居心地が良く歩きたくなる」まちなかのイメージ



出所：ウォカブルポータルサイトより抜粋

自治体の取組み例



「あそべるとよたプロジェクト」

まちなか広場で市民・企業・行政が一体となってやってみようを実施しながら試行を重ね、公共空間を使いこなす継続的な仕組みを構築する社会実験



「IKEBUKURO LIVING LOOP」

「都市を市民のリビングへ」をキーワードに、グリーン大通り・南池袋公園を活用してマルシェやワークショップ等を展開

出所：ストリートデザインガイドラインー居心地が良く歩きたくなる街路づくりの参考書

③ビジョンの趣旨・背景

3-2 ビジョン策定の趣旨・背景

戸田市の特徴

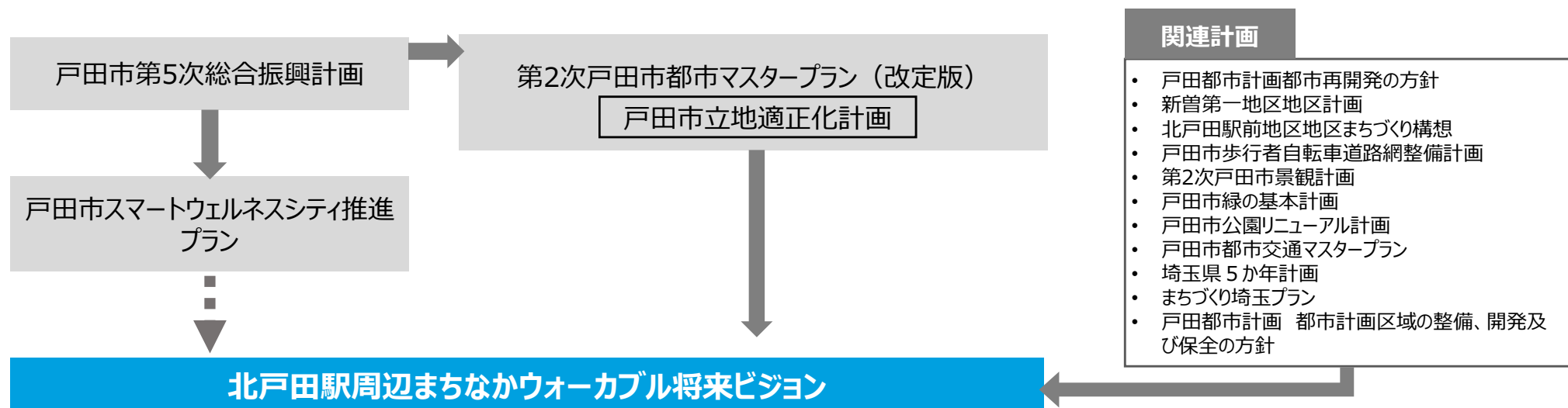
- ・戸田市は、JR埼京線が開通以降人口は増加傾向で、平均年齢が若く高齢化率が低い全国でも数少ない都市です。今後も人口増・定着化を図るため、住み続ける・選ばれ続ける魅力的な都市の形成が求められています。

北戸田駅周辺の将来像

- ・現在、新曽第一土地区画整理事業が進行中のJR北戸田駅周辺地域において「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を形成し、道路や公園などの公共空間を含めたエリア内の回遊性・滞在性を高め、賑わいの場を創出することで民間活力を取り込み、地域全体の価値の向上を図ることが期待されています。
- ・このため、地域に関係のある事業者・町会・商店会・公共施設の管理者等による協議会を組織し地域の課題等を検討しながら、持続的な官民連携のまちづくりに資する「北戸田駅周辺まちなかウォーカブル将来ビジョン」を策定します。

3-3 市の上位・関連計画とビジョンとの関係

- ・本ビジョンは、戸田市都市マスタープランやスマートウェルネスシティ推進プランなどを上位計画とし、関連する諸計画を参考にしつつ定めます。



④対象エリア

4-1 対象エリア

- 戸田市立地適正化計画における「都市機能誘導区域」をもとに、まちの中心拠点である北戸田駅を中心とした約1km圏内、さらに活動拠点になり得る公園を含めたエリアをウォカブル区域として設定します。

駅前

駅からの行動が動線の起点であり、利便性・快適性の向上が必要



高架下周辺

上位計画においてもエリアの賑わい寄与に向けた有効活用が課題とされている



笹目川

河川沿いはプロムナードとして整備されており、イベントも開催されるなど市民からも地域資源として認識されており、さらなる活用の可能性が期待できる



凡例

- 公園
- 河川
- 駅前・交流広場
- 高架下周辺

※都市機能誘導区域…立地適正化計画において、都市再生を図るため、医療施設、福祉施設、商業施設などの都市機能増進施設の立地を誘導すべき区域。

ボール公園

積極的に活用されており、他のオープンスペースとの連携により一層の活用が期待できる



(仮称) 2号公園

駅周辺で最も広大なオープンスペースであり、土地区画整理事務所解体後の活用が期待できる



⑤現況・課題

5-1 北戸田エリアの概要

- 北戸田駅周辺はかつては水田地帯であり、新曽第一土地区画整理事業が現在も進められています。市全体では人口増加が維持され、平均年齢も若く成長が続いているまちであるのと同様に、北戸田駅周辺でも人口増加の傾向があります。
- 北戸田駅は都心と直結するJR埼京線の停車駅であり、駅改札からおおむね100m以内に路線バス停留所が設置され、高架下の駐輪場や駅前のシェアサイクルもなどの移動手段も整備されています。
- 一方、現在の駅周辺には、賑わいを創出する店舗、商業施設等の駅前の立地に相応しい施設が十分に備わっていないため、市街地は形成途中のエリアといえます。

北戸田エリアの変遷

1960年頃（埼京線開通前）



古くからの低湿地の水田地帯であり、1970年ごろまでは地区全域が水田となっており、稲穂と葦が生い茂る農業地域であった。

1990年頃（埼京線開通直後）



JR埼京線が開通するも、まだ新曽第一土地区画整理事業は実施されていなかった。方々に倉庫などが増えている程度である。

2019年



新曽第一土地区画整理事業再開発事業の進捗により、駅周辺の整備や河川沿いのプロムナード整備が進む。民間のマンション等の建設も進み、駐車場等の利用も見られる。

出所：国土地理院（<https://maps.gsi.go.jp/>）

⑤現況・課題

5-2 上位・関連計画からの示唆

・上位・関連計画における本市の課題について、今後のまちづくりを推進していく観点から、以下のとおり整理します。

まちの顔に相応しい、個性ある中心拠点の形成

(戸田市第5次総合振興計画、第2次戸田市都市マスタープラン、立地適正化計画等)

- ✓ 戸田市は転出入の多さから、地域コミュニティが醸成されにくいといった課題があるなかで、駅周辺にふさわしい土地利用や拠点性の強化が求められている。今後も人口の定着化を図るために、ライフステージに合わせた多様なニーズに対応した住環境整備が重要となる。
- ✓ 市内3駅それぞれに個性や特色が見出しにくい現状に対し、住環境に求められるニーズの高度化・多様化を踏まえ、北戸田らしいコンセプトづくりが必要である。

公共空間を活用した地域交流の形成

(第2次戸田市都市マスタープラン、戸田市スマートウェルネス推進プラン、北戸田駅前地区地区まちづくり構想等)

- ✓ 北戸田駅周辺は、商業の集積が少なさが課題であるため、環境空間や整備予定の都市計画道路、駅前交通広場などを活用し、地域主体の交流を促す場を創出する必要がある。
- ✓ 市内で最も平均年齢が低いエリアであることから、若者を中心とした世代間のコミュニケーションの促進等が課題となっており、公共空間を活用した地域交流・魅力向上の方策について検討が必要である。

安全で快適な交通空間の形成

(戸田市第5次総合振興計画、戸田市都市交通マスタープラン等)

- ✓ 歩行者、自動車、自転車共存する駅前空間を目指し、アクセス向上や公共交通への乗り換えの利便性を高めるなど交通結節機能の強化を念頭に置く必要がある。
- ✓ 目的地となる拠点の整備や、拠点間を結ぶ動線計画、歩く快適さ・楽しさを生む道路空間の利活用を検討する。
- ✓ 市域の特性を踏まえた歩行者・自転車ネットワークの形成についても検討が必要である。

官民連携による街並み誘導

(第2次戸田市景観計画、戸田市緑の基本計画等)

- ✓ 北戸田駅周辺がまちの顔であることを踏まえ、中心拠点にふさわしい景観形成が必要。まずは、公共施設でのデザインを先導的に推進し、市民や事業者と景観づくりの方向性を共有しながら協働で取り組んでいくことが重要である。
- ✓ 駅周辺が景観づくり推進地区内に位置していることもふまえ、景観アドバイザーの活用により、都市的な魅力ある住宅等開発が求められる。
- ✓ 道路空間の緑化や、河川沿い及びその歩行者空間の緑化等による良好な都市環境を作っていく必要がある。

⑤現況・課題

5-3 市民意識—人流調査

- 北戸田駅周辺の人流データを調査分析したところ、人の滞在・回遊が限定的であり、通勤・通学以外で駅周辺を利用する人が少ない傾向であることが明らかになりました。

利用した人流データ：ODデータ、滞留データ、通行量データ
集計単位：月単位の平日・休日における1時間ごとの集計
分析対象範囲：北戸田駅中心半径1.5km圏内
取得期間：3カ月（2023年5月～7月）

分析結果 1 | 通勤・通学以外の理由で駅周辺を歩いていない

通勤・通学以外かつ通過移動ではなく滞在するために歩行している人が少ない可能性があります。年齢・世代別でみた場合、39歳以下・40～59歳以下の歩行量は駅周辺やイオンモール周辺で多いのに対し、60歳以上の男女の歩行量は少ないことが分かっています。

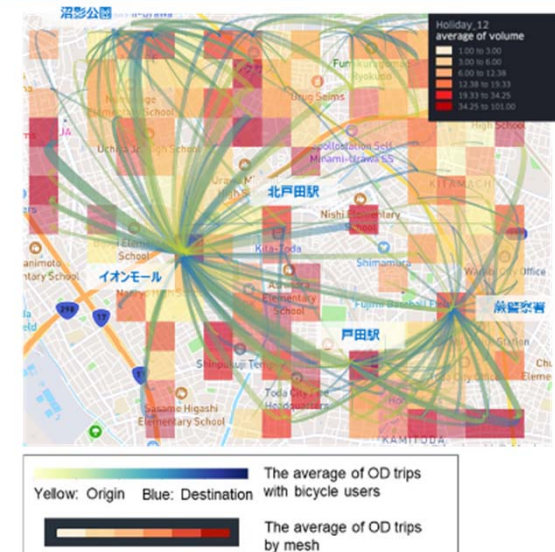
分析結果 2 | 北戸田駅周辺で日常的な消費活動が少ない

北戸田駅周辺では滞在・回遊する人が少ない状況であり、近隣のイオンモール等に滞在して余暇を過ごしている可能性が高いです。また、比較的若年層は北戸田駅周辺での日常的な消費活動を行っている傾向が見られます。

分析結果 3 | 北戸田駅周辺では滞在性・回遊性に乏しい

平日は通勤通学に伴い、北戸田駅周辺への移動需要（往来）があるが、休日は北戸田駅周辺に余暇等で訪れる需要が少ない一方、イオンモール北戸田への自動車等での移動が多く見られたことから、北戸田駅周辺では人が滞在・回遊していない可能性が高い。

ODデータ | 平日 12-13時



通行量データ | 17-18時（平日）



⑤現況・課題

5-3 市民意識－アンケート調査

- 北戸田駅周辺1.5km圏の住民を対象にしたアンケートによると、駅周辺において目的地となる立ち寄り場所が不足し、滞在せず、通り過ぎる場所になっている状況が伺えます。

回収率：約11.2%（235/約2,100モニター）

調査対象：・事前登録情報から「北戸田駅から半径1.5km圏内」に居住地登録があった人を抽出

・なお、北戸田駅半径1.5km圏内に居住するモニター数は約2,100人

調査方法：事前登録モニターに対してwebアンケート調査形式で実施

調査期間：令和5年9月11日～令和5年10月4日

北戸田駅の利用状況（目的・頻度）

- 北戸田駅を利用する目的・頻度が高いものは「通勤・通学」と「買い物」などの日常的な利用が中心であった。その他の利用目的・頻度が低かったため、駅に特別な目的を持って来訪する割合は低い。

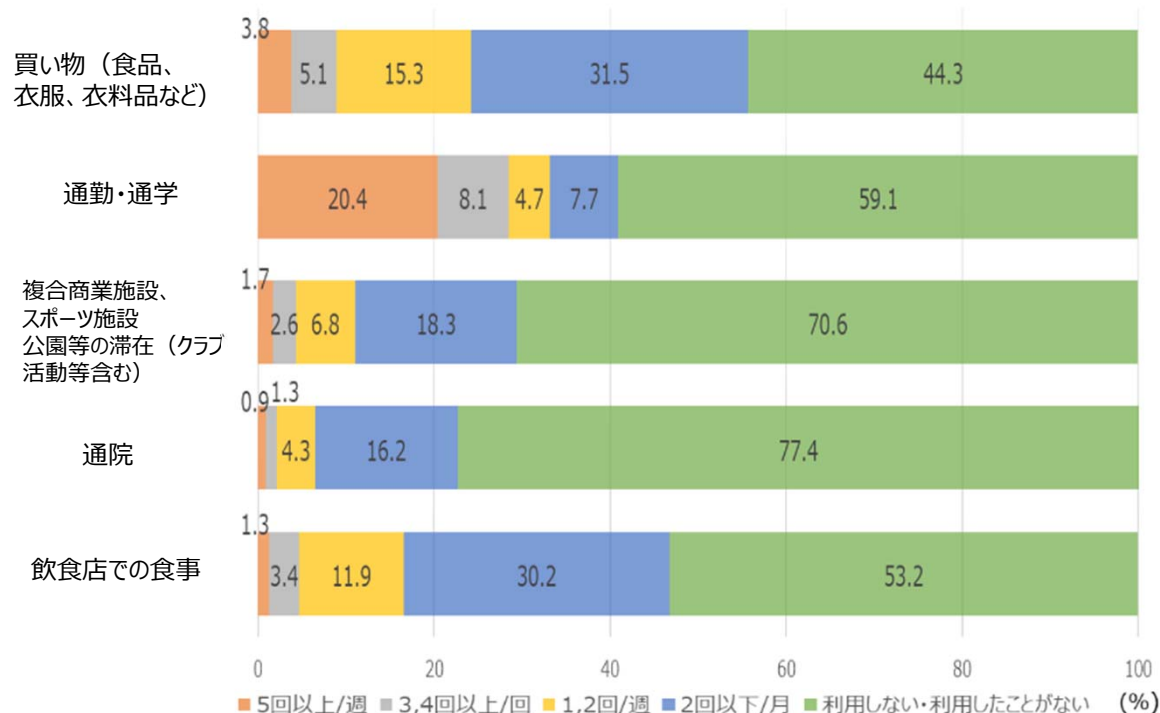


図 北戸田駅の利用目的とその頻度

滞在時間

- 「10分以下の滞在」が最も多く（46.4%）、日常生活における鉄道への乗り換えなど通過的な利用が主であることが示唆される。
- 北戸田駅周辺では滞在している人が少ない状況といえる。

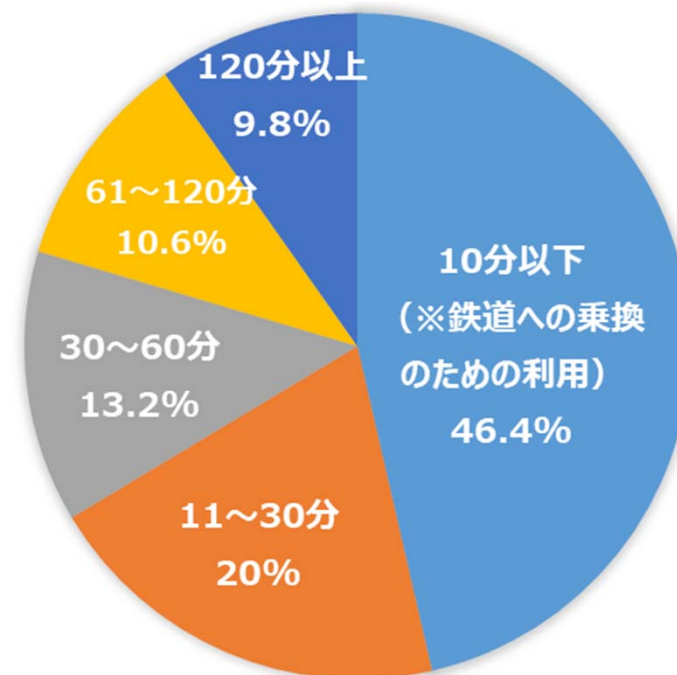


図 北戸田駅周辺への来訪時の滞在時間

⑤現況・課題

5-3 市民意識－アンケート調査

- ・駅周辺での消費ニーズはあるため、魅力的なコンテンツの導入により、滞在・回遊の増加につなげることが期待できます。

回収率：約11.2%（235/約2,100モニター）

調査対象：・事前登録情報から「北戸田駅から半径1.5km圏内」に居住地登録があった人を抽出

・なお、北戸田駅半径1.5km圏内に居住するモニター数は約2,100人

調査方法：事前登録モニターに対してwebアンケート調査形式で実施

調査期間：令和5年9月11日～令和5年10月4日

駅周辺に不足しているもの

- ・約56%がウォーカブルな空間整備に肯定的だが、賑わい不足（44.3%）や魅力的な施設の欠如（37.9%）が指摘されている。
- ・具体的には、「駅周辺に日常的に利用できるカフェや商業施設が不足している」との意見があり、生活利便性の向上が求められている。

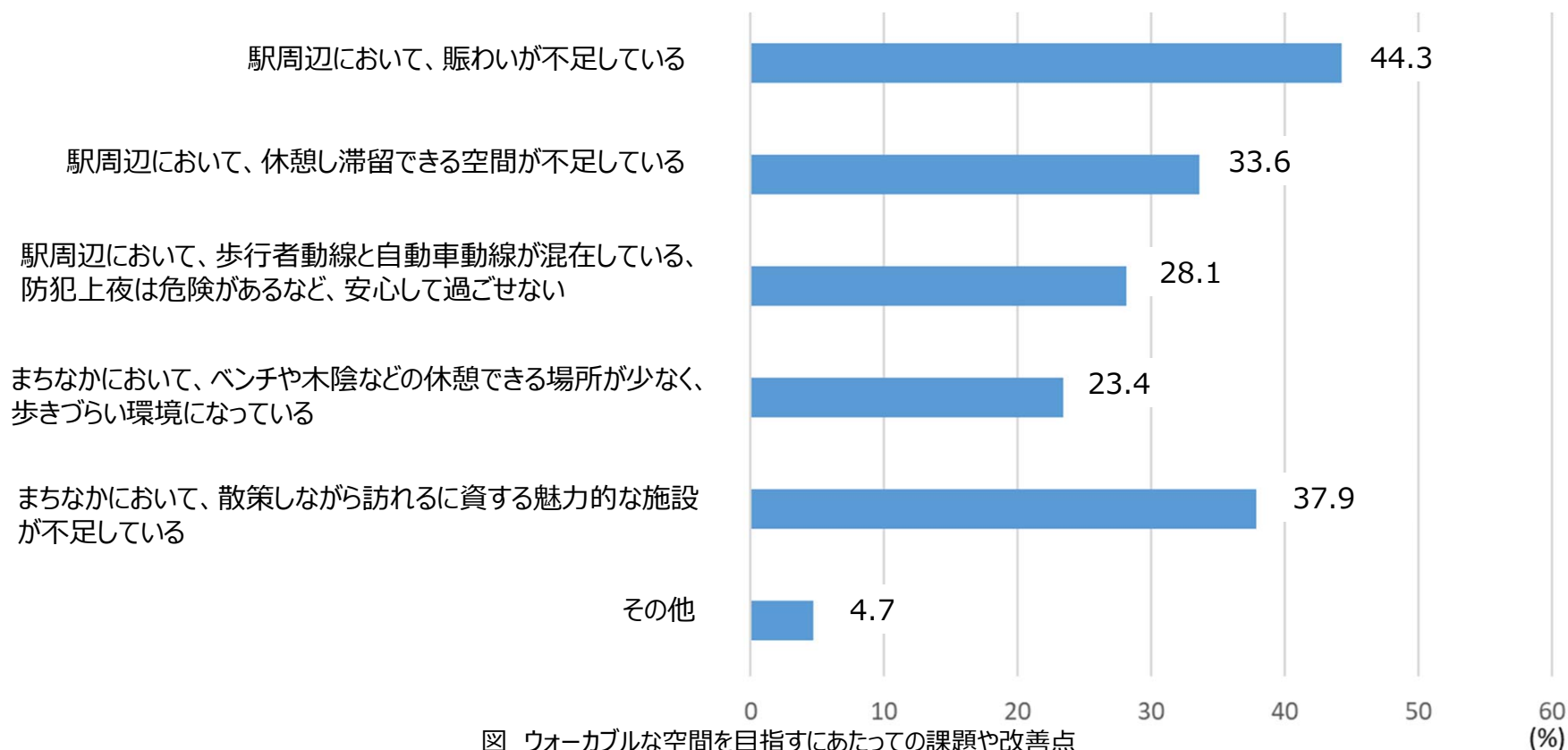


図 ウォーカブルな空間を目指すにあたっての課題や改善点

⑤現況・課題

5-3 市民意識ワークショップ

- ・将来ビジョン策定にあたって、実際に北戸田駅周辺をまち歩きしながら、地域住民を対象としたワークショップを実施しました。
- ・課題や将来像を検討し、駅周辺の各公共空間に地域住民が求める姿を得ることができました。

北戸田駅周辺の未来を考える まちづくりワークショップ

第1回 令和5年9月 「駅前・駅周辺の使い方を考える」

北戸田駅周辺の課題を抽出し、どんな使い方をしたいか共有しました。

第2回 令和5年10月 「駅前・駅周辺の将来像を考える」

公共空間の活用により駅前・駅周辺の将来像を考え、アイデアを出し合いました。



第3回 令和6年2月 「これからの駅前・駅周辺のまちづくりを企画する」

社会実験を実際に企画しました。

課題

- ・賑わいや個性を感じにくい
- ・人との交流が少ない
- ・子育て向けのサービスが少ない
- ・道路や川、公園の雰囲気が悪い
- ・未利用の空き地等が多い

使い方

- ・交流の拠点
- ・賑わい創出の場
- ・自然を身近に感じられる場
- ・子どもが遊び・学べる場



将来像

エリア

将来像を構成するキーワード

駅前・ 交流広場

高架下

公園

#明るい駅	#マルシェ	#ピクニック
#統一したデザイン	#憩いの場	#文化施設
#AR/MRデジタル	#イベントスペース	#作品展示
#ライトアップ	#駐車場	#遊び走り回れる等
#イルミネーション	#自転車	
#イベント	#駐車場	#SOHO
#コワーキング施設	#トイレ	#チャレンジショップ等
#シェアキッチン	#イベントスペース	
#スケボーパーク	#フリースペース	
#ボルダリング	#アーケード街	
#オープンスペース	#ベビーカーでも行きやすい	#ゴミがないきれいな公園
#アスレチック	#球技OK	#コンサート開催
#多世代が使える	#バーベキュー	#親子スポーツ大会
#強いコンセプト	#ミニキャンプ	#遊びサポーターの設置等
#カフェがある公園	#イベント広場	
#子どもが楽しめる		

エリア

将来像を構成するキーワード

笹目川

道路

#イベント	#サイクリング	#遊歩道
#花壇	#ジョギング・散歩	#公園との一体感等
#自然を感じる	#プロムナード	
#きれいな川づくり	#水辺・水遊び	
#憩い・リフレッシュ	#リビング的な空間	
#歩いて楽しい	#ランニングロード	#木陰・夏場でも涼しい
#公園・駅・川をつなぐ	#サイクリングロード	#植樹等
#回遊	#イルミネーション	
#飲食店		

企画のアイデア

- ・パフォーマンス・音楽イベント
- ・スポーツ体験
- ・子どもがやりたいことを実現する
- ・飲食できる屋台やキッチンカー
- ・アートの展示

社会実験
「キタダまちなかチャレンジ」へ

⑤現況・課題

5-4 社会実験の実施

- ・将来ビジョンの策定にあたり、公共空間を活用した社会実験を実施しました。
- ・この社会実験では、地域の住民・事業者等による「まちづくりラボ準備会」が企画・運営の実施主体となり、公園や道路空間の活用の試行を通じたにぎわいの創出に取り組みました。



北戸田駅周辺ウォカブル社会実験

「キタダまちなかチャレンジ」

笹目川プロムナード、ボール公園、北戸田駅前にて

2024/11/23（土）10時～15時

社会実験の目的

空間の 使いこなし

- ・従来のハード整備先行型の公共事業ではなく、空間を使う中で、「どのような空間ならより楽しめるか？より使いやすいか？」を共に考え、実行・検証することで、居心地のよい空間の利活用を目指した整備へとつなげていきます。

まちで活動 する仲間づくり

- ・地域の方との地元ネットワークを発揮し、ウォカブルなまちづくりに賛同し、ともに取り組む仲間を集めます。

取り組みを 知ってもらう

- ・イベント形式で公共空間を活用することで、多くの地域の方に取り組みを知っていただくきっかけとします。

実施したコンテンツ

■笹目川プロムナード

- ・ステージ
- ・キッチンカー
- ・マルシェ & ワークショップ

■笹目川プロムナード・北戸田駅前

- ・まちなかアート展示
- ・ウワサの北戸田クイズラリー
- ・絵馬に願う北戸田

■ボール公園

- ・ドッジボール大会・親子ドッジボール
- ・フリスロー・モルック体験
- ・幼児向けボール体験

来場者数：約3,023人

成果

- ・キッチンカーやクイズラリーのコンテンツの評判が高く、今後の北戸田駅周辺の活性化への期待や市事業への関心も高いことが分かった。
- ・今後の活動主体となる「まちづくりラボ」と地域のネットワークづくりにつながった。
- ・不足する資材やインフラ、動線、人材など、空間活用に向けた課題を得ることができた。

⑤現況・課題

5-5 社会実験の検証結果

- ・社会実験時のアンケート調査などから、地域住民が求める賑わいづくりや空間づくりの方向性を整理しました。

アンケート実施期間：2024/11/23（土）～2024/12/1（日）（googleフォーム・紙回答 ※紙は11/23のみ）

回答者数：参加者（82人）、出店者・出展者（25団体）

設問要旨：社会実験の満足度、今後希望する企画・開催時期、北戸田駅周辺の空間に求めるもの など

にぎわいを生む取組みについて （活動などソフトの取組み）

- ・今後も、スポーツ体験、子どもの遊び場、キッチンカーなどの魅力的なコンテンツが求められており、定期的なイベント開催が期待されている。
- ・市の取組みに協力したいという意識が一定数あることを踏まえ、動機をさらに強化する広報や仕組みが必要。
- ・地域主体での運営に向けた体制構築により、さらなる公共空間の活用が期待されている。

歩きたくなる・滞在したくなる空間について （整備などハードの取組み）

- ・「滞在したい空間」に関する具体的な要望としてベンチや緑化が求められている。
- ・安全面を重視し、夜間も安心して歩けるような「車両用道路と区別された歩行空間」が必要。特に子育て世帯にとって安全な環境整備が望まれている。
- ・今回の社会実験で実施したプロムナードを楽しむためのストリートファニチャーの設置やイベントの提案が支持された。
- ・親子連れをターゲットとした社会実験に多くの人が来場したことから、空間整備の際の重要な視点となる。



⑤現況・課題

5-6 課題のまとめ

- これまでの現状を踏まえ、北戸田駅周辺のまちづくりにおいては、駅周辺のオープンスペースを活用した活動・滞留の場を設け、魅力的な目的地、豊かな景観形成などの北戸田ならではの個性を徐々に育てていくことで、賑わいを創出していく必要があります。
- また、歩行環境の整備により、歩きたくするような動線づくりも求められます。

視点 賑わい・景観

- 課題
- 駅周辺に商業の集積が少ないことにより、来訪や滞在する環境が作られていない
 - 地域の拠点性を高めることで地域の個性につながっていく
 - 北戸田駅前は、中心的な拠点であり、まちの顔であることから、相応しい景観形成が必要
 - 高架や遊歩道のある笹目川など特徴的な地域資源も有しているが、賑わいづくりのためのポテンシャルが活かされていない

解決の方向性

多世代が訪れたいような活動の場の創出と同時に、地域の拠点として「北戸田らしさ」を育てていくことが必要

視点 交通・利便性

- 課題
- 駅前から笹目川や公園など、公共空間同士をつなぐ動線が分かりにくく、移動しづらい状況
 - 夜間照明などにより安全性を高める必要がある
 - 特に、高齢者や子供連れも歩きやすい空間設計に配慮

解決の方向性

公共空間を結ぶ動線として安全で快適な歩行環境の整備が必要

視点 多世代交流・地域協働

- 課題
- 比較的若いまちであるため、地域コミュニティが発展途上であるため、日常的な人との交流や活動の機会が不足しているおそれ
 - 公共空間については、地域発意での利用ニーズがあることから、場の活用により多世代交流や地域活動の場となる可能性がある
 - 住民の愛着と活力を育むためにも、住民が主体的に地域に関与できる場やまちづくりへの参画が重要

解決の方向性

地域主体の交流を促進する場として、公共空間の利活用方策の検討が必要

⑥将来ビジョン（コンセプト・基本方針）

6-1 事業コンセプト

- ・⑤現況・課題を踏まえ、本ビジョンの羅針盤となるコンセプトを設定します。
- ・コンセプトを実現するための基本方針として、北戸田エリアの個性や魅力向上につながる「活動に関する重点方針」と、その重点方針を促進し、相互効果を高める公共空間の整備に関する方針を「基盤整備の方針」と定めます。

コンセプト

新しいチャレンジを育んでいくことで、変化し続けるまち、北戸田

基本方針

活動に関する 重点方針

駅周辺におけるチャレンジの場創出によるまちなかを歩きたくなる、魅力的なコンテンツやにぎわいの形成

- 賑わい創出 | 多様な世代が楽しめる施設の誘致、イベント開催によるにぎわい創出
- 健康の促進 | 歩きたくなるまち並みやスポーツ・アクティビティができる場所の創出による健康増進
- 市場形成 | 誰でもチャレンジでき、ユーザーも楽しめる場を作ることによる、駅周辺の経済活動の活性化
- 多世代交流 | 子供から高齢者まで、誰もがお互いを尊重し、取り組みを応援できるコミュニティの形成、地元定着
- 官民連携による活力向上 | 住民意見に基づき、イベントや取組等のアイデアを官民連携にて効果的に創出・実現



基盤整備の 方針

安全で快適な移動・滞在空間の整備

- 安全・安心 | 歩行者、自転車、自動車の空間が適切に分担され、夜でも明るく、安心して行き交える空間
- 快適性 | まちなかで休憩・滞在できるテーブル・ベンチや、夏でも快適に歩ける緑空間の整備・維持管理

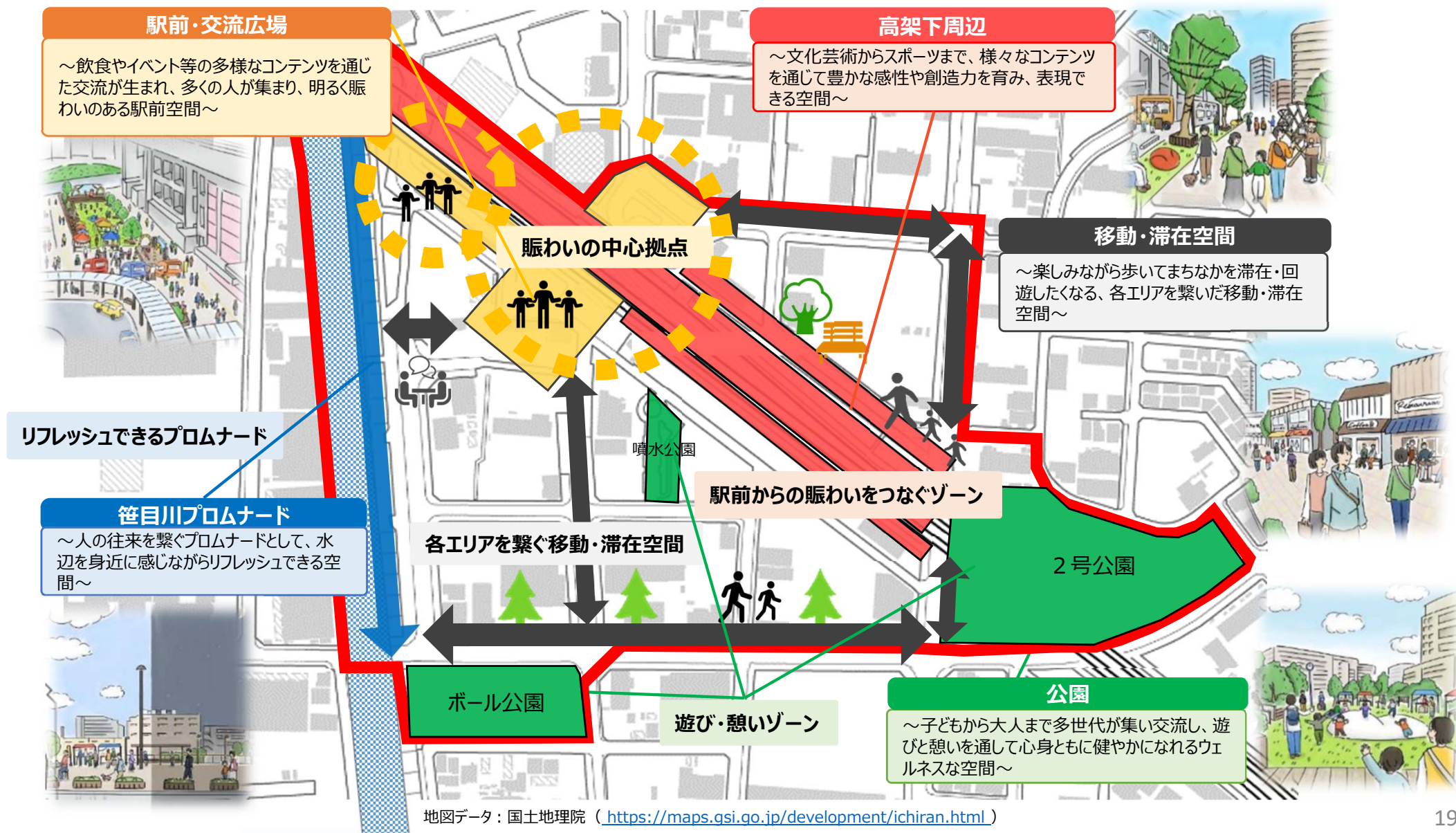
明るく緑豊かな街並み形成、市民協働による保全等の枠組み作り

- 空間デザイン | 公共空間整備における市民アイデアの反映、景観アドバイザー制度の活用による北戸田らしさのある景観形成
- 維持管理 | 公共空間の持続可能な市民参画型維持管理

⑦エリア別の将来像

7-1 将来イメージの整理

- 各エリアの特性と実現すべき基本方針を踏まえ、エリア別の将来イメージを示します。



⑦エリア別の将来像

駅前・交流広場

～飲食やイベント等の多様なコンテンツを通じた交流が生まれ、
多くの人が集まり、明るく賑わいのある駅前空間～

活動の重点方針

- 北戸田のまちの顔に相応しい明るく賑わいのある地域の拠点

基盤整備の方針

- 滞在性や利便性に優れた“人中心”の駅前・交流広場
- 多様な人を受け入れ、交流を生む空間づくり

具体的な取組の例

- ✓ マルシェやキッチンカー等の飲食や小売系の取組み
- ✓ 出かける・集まる動機となるイベント等の実施
- ✓ 緑化やライトアップなど明るく親しみやすい景観形成
- ✓ 公有地・民地等の有効活用（チャレンジ広場など）
- ✓ 北戸田駅西口駅前交通広場及び交流広場の整備



⑦エリア別の将来像

高架下周辺

～文化芸術からスポーツまで、様々なコンテンツを通じて豊かな感性や創造力を育み、表現できる空間～

活動の重点方針

- 駅前・交流広場からのにぎわいをつなぐ

基盤整備の方針

- 多彩な活動のきっかけとなる高架下周辺のオープンスペース
- 新たなチャレンジを支援する枠組みの構築
- 居心地よい緑や滞在を促す設えのある空間

具体的な取組の例

- ✓ 文化芸術・スポーツなどの多様な趣味の人々が集まるスペースづくり
- ✓ チャレンジを応援する官民連携による枠組みの検討
- ✓ シェアサイクルサービス等の高度化（モビリティステーション）
- ✓ 夜間イルミネーションによる演出
- ✓ 環境空間脇道路の再整備（ストリートファニチャーなどの設置による高質空間化）



⑦エリア別の将来像

公園

～子どもから大人まで多世代が集い交流し、
遊びと憩いを通して心身ともに健やかになれるウェルネスな空間～

活動の重点方針

- 柔軟な発想で活用できる多様なシーンをもつ公園
- 多世代の利活用によるコミュニティ形成の場

基盤整備の方針

- 誰もが集える憩いの公園づくり
- 緑豊かで親しみやすい空間形成

具体的な取組の例

- ✓ 親子が安全かつのびのびと遊べるハード・ソフト面の環境整備
- ✓ 飲食用途の導入等の多様な生活シーンの形成
- ✓ 市民参加による緑化活動
- ✓ 多世代が利用する公園内でのイベント企画
- ✓ 2号公園の整備



⑦エリア別の将来像

笹目川プロムナード

～人の往来を繋ぐプロムナードとして、水辺を身近に感じながらリフレッシュできる空間～

活動の重点方針

- 人の往来を促す、オープンで快適なプロムナード

基盤整備の方針

- 日中は交流が生まれる憩いの場、夜間は情緒や温もりの感じられる、対照的で時間軸のある空間の形成
- 水と緑の豊かな自然が感じられ、居心地の良い水辺空間

具体的な取組の例

- ✓ 水辺空間の魅力が融合したイベント等による活用促進
- ✓ 水辺空間の魅力を伝える地域・団体による活動
- ✓ 居心地が良く歩きたくなるような温かな夜間照明による演出
- ✓ 笹目川プロムナードの充実（遊歩道で過ごしたくなるストリートファニチャーの設置・イベント実施時の電源整備等）



⑦エリア別の将来像

移動・滞在空間

～地域内の魅力を体験し、楽しみながら歩いてまちなかを滞在・回遊したくなる移動・滞在空間～

活動の重点方針

- 官民連携による滞在性・回遊性に富んだ“人中心”の移動・滞在空間づくり

基盤整備の方針

- 北戸田駅周辺の各エリアを繋ぎ、まちなかの滞在・回遊性を高めるネットワークの形成
- 北戸田の景観を楽しめる道路空間の創出

具体的な取組の例

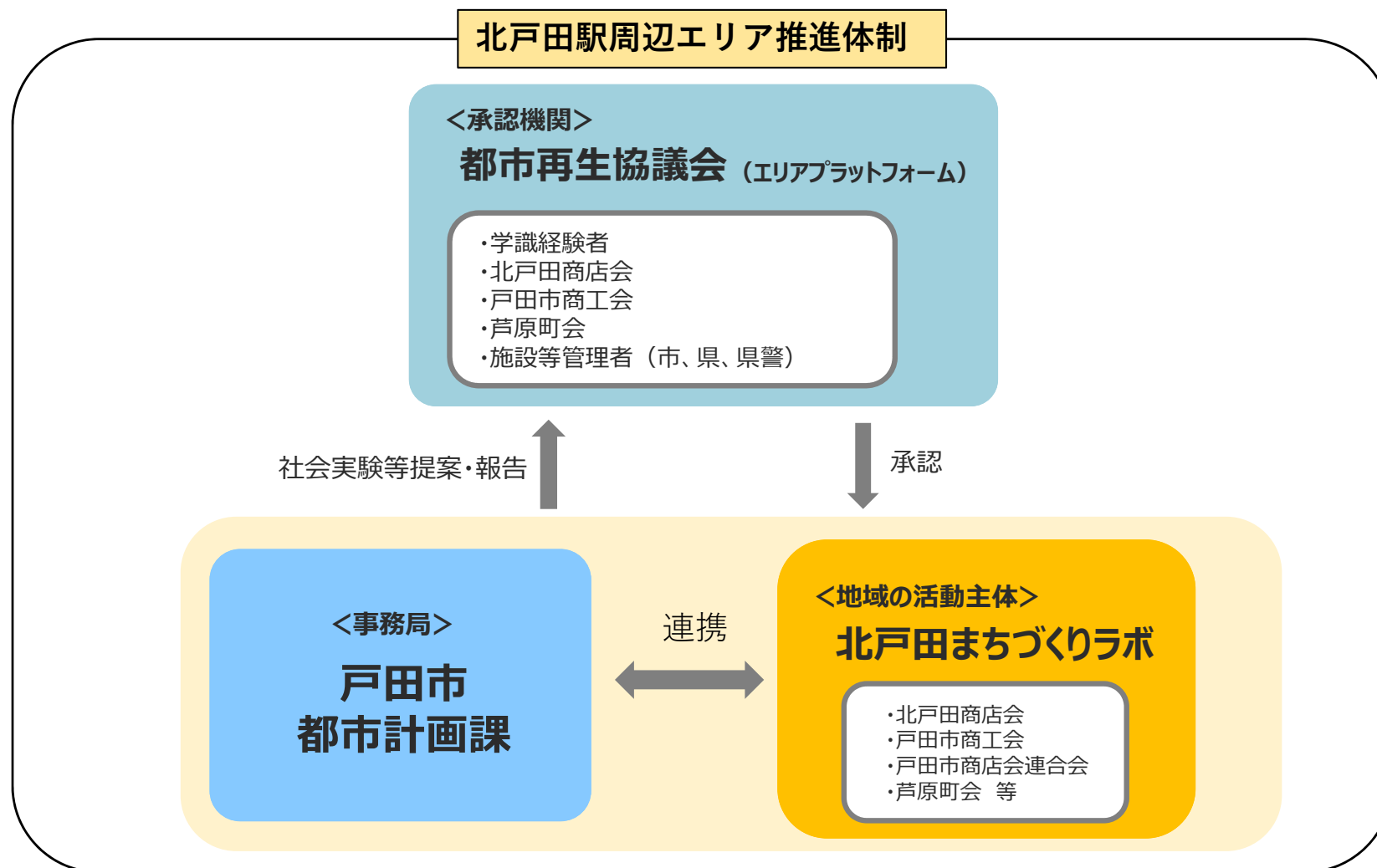
- ✓ 道路を活用したマルシェが開催される環境の構築
- ✓ 沿道店舗が歩道などを活用しやすい制度の導入（歩行者利便増進道路等）
- ✓ イベント時は歩行者天国にするなど、非日常的な雰囲気演出
- ✓ 北戸田駅周辺都市計画道路の整備促進（緑化、バリアフリー等）



⑧実施体制

8-1 官民連携体制の構築

- 令和7年度末頃に「北戸田駅西口交通広場及び交流広場」が完成する予定です。そのため、北戸田駅周辺の様相がこれから大きく変化します、
- 官民連携による会議体である「エリアプラットフォーム」は、本来様々な活動主体とつながる場であることが理想ですが、北戸田駅周辺状況の変化に伴い、メンバー構成が大きく変化する可能性を秘めています。同時に、北戸田駅周辺に魅力を感じ、新たなプレイヤーからアプローチがあることも予想されるため、暫くの間、現状の体制を維持し、北戸田まちづくりラボとの連携及び都市再生協議会での承認により、駅周辺の公共空間を活用した賑わいづくりに取り組んでまいります。



⑧実施体制

8-2 ハードとソフトの考え方

- 官民連携による推進体制の構築に向けた役割を示します。
- 新しいまちづくりについては基本方針にあるとおり、行政によるハード整備と官民連携によるソフトの取り組みの両輪を推進し、地域資源を活かした「にぎわい」「歩きたくなる」「滞在したくなる」これらの機会を創出するような取り組みが必要です。
- また、今後のロールモデルとなることから、若い世代・子育て世代・シニア世代の目線で『このまちで良かった』と思えるよう丁寧に進めることも大切です。

ソフト（官民連携の取り組み）

社会実験・試行検証の実施
将来ビジョン推進組織づくり
新たな協力事業者等の掘り起こし

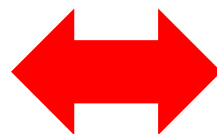
公共空間の
利活用

駅前広場
道路
河川 等

(例)エリアマ
ネジメント組
織等の検討

新たな協力
事業者等の
掘り起こし

(例)ものづく
り拠点・マル
シェ等の運
営



ハード（行政の取り組み）

土地区画整理事業
道路整備事業
地域公共交通の再編

北戸田駅
西口駅前
交通広場
及び交流
広場の整備

環境空間協
道路の再整
備

2号公園の
整備

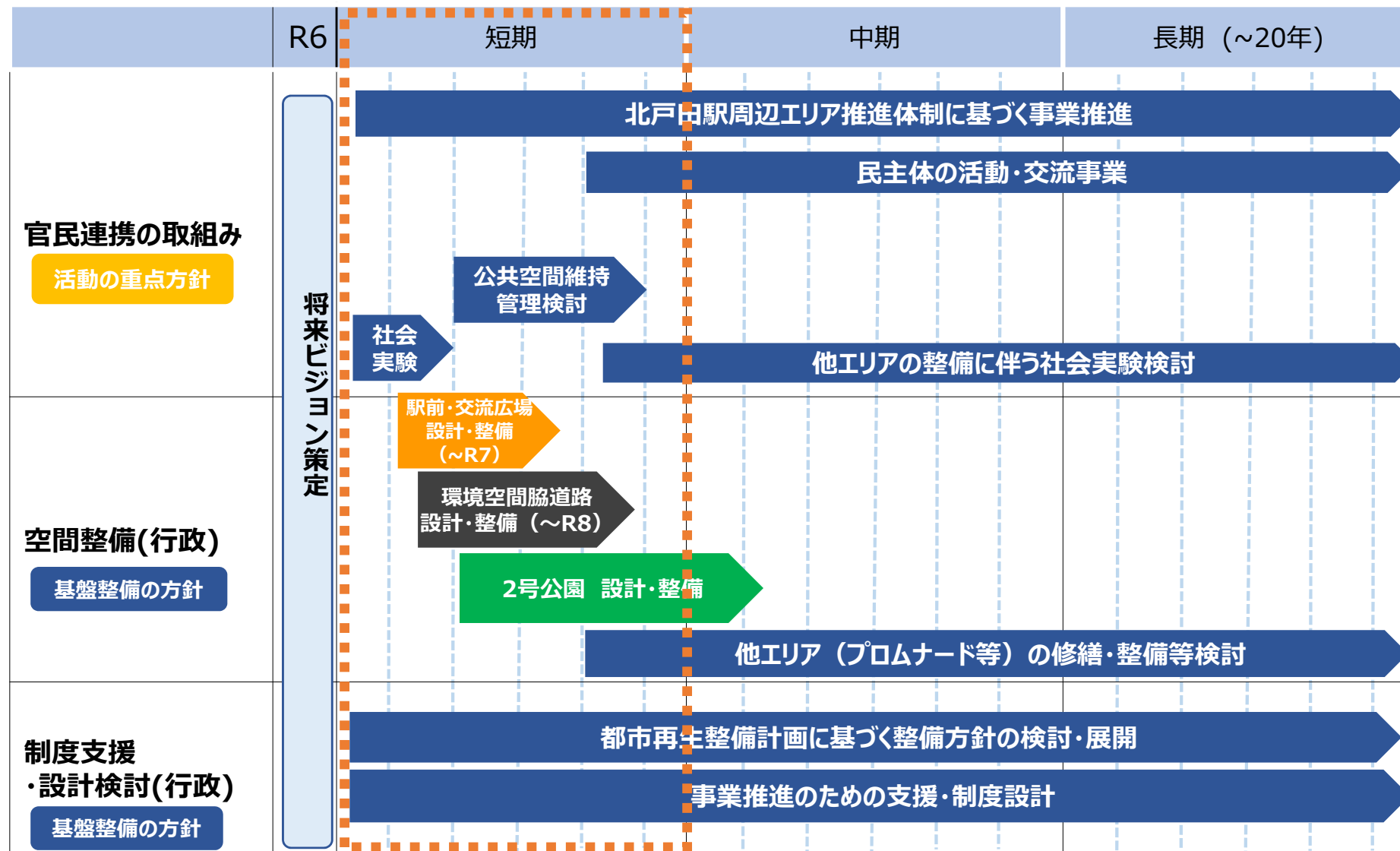
笹目川プロ
ムナードの充
実

⑧実施体制

8-3 スケジュール

- 今後は、本ビジョンの実現のため、空間活用に向けた社会実験、空間整備を通じて官民連携による事業推進してまいります。
- 「短期」については、より具体的な空間整備を記載し、今後の見直しのタイミングで整備内容も新たに更新していきます。

ウォーカブル推進事業の想定スケジュール



北戸田駅周辺まちなかウォークابل
将来ビジョン

令和7年4月

戸田市発行